

# 進化する中学校給食

25年以上の議論を経て

公明党が25年以上にわたって取り組んできた「中学校給食」が始まり、2年目に入ります。弁当と給食が選べる「選択制デリバリー型給食」は様々な意見の中、社会環境の変化に対応し、成長期の中学生の昼食を充実させるため、関係者の尽力とアンケートなど客観的な根拠に基づく議論の積み重ねの結果、実現したものです。

地元業者の弁当販売やスクールランチ方式のモデル実施、ハマ弁の全校実施を経て、昨年4月から開始された選択制デリバリー型中学校給食。横浜市教育委員会がメニューの改善や、注文時の利便性向上などに取り組み、現在の喫食率は20%を超えて推移。新年度予算では30%を見込むなど、利用者は着実に増えています。

新入生に給食利用を推奨する「さくらプログラム」も、今年度の86校から新年度は市内全145校へと拡大します。実際に食べて頂くことで質の高さを伝える機会とな



給食費は1食330円。上記メニュー例のような栄養バランスのとれたおかずにごはんと汁物、牛乳がセット。牛乳なしのセットや、牛乳だけの注文も可能

り、実施校では1年生の喫食率が40%近くを推移しています。さくらプログラムで多くの方にお試し頂きたいと思えます。

## 全庁挙げてプロモーション

2月の議会では昼食時間に関わる配膳体制の強化について質問し、改善する旨の答弁を得るなど、利用しやすい環境づくりに努めています。一方、注文を躊躇してしまいうような情報もあることから、イメージの改善についても質問。山中市長からは「栄養バランスはもちろん、味も美味しく、充実した内容」「試食会やSNSによる広報など自身が先頭に立ち、全庁を挙げてプロモーションを行う」との答弁がありました。現状では中学生全員分をまかなう供給能力はないため、体制整備も指摘。市長は「事業者と調整し、安全かつ安定した供給体制を確保する」と答えました。

今後もさらに美味しく、充実した中学校給食の実現に取り組んで参ります。

公明党  
横浜市議団  
市政報告



## 仁田まさとし プロフィール

- 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会
  - 大都市行財政制度特別委員会(副委員長)
- ◇ 施政方針は「動く、創る、変える。」  
ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>  
f t ライン 情報発信中